文化薫道

～文化の風が吹くまち ちくしの～

問い合わせ先／文化情報発信課（歴史博物館内）☎（921）8419

―其の十七―
紙本著色宝満山入峯絵巻

筑紫野市の北東にそびえる宝満山は、山で修行中の心蓮上人（しんれんしょうにん）の前に玉依姫（たまよりひめ）が現れた白鳳2（673）年に開山したと伝えられています。泉や窟（くつ）、巨岩などが点在する宝満山は、修行を行う僧や山伏にとって神霊が宿る場所であったと考えられます。

山伏の入峰（紙本著色宝満山入峯絵巻の一部より）

山伏たちが集団で修行をするようになるのは鎌倉時代からで、重要な修行が入峰（峰入（みねいり））でした。入峰は春に宝満山から宗像孔大寺（こだいし）まで駈ける葛城峰（かつらぎのみね）（春峰）と、秋に宝満山から彦山までを駈ける大峯（おおみね）（秋峰）がありました。

そのうち、葛城峰は藩主のための特別な場合を除き、宝満山を取り仕切る座主（ざす）が一代一度だけ行う入峰です。

江戸時代の葛城峰の様子を描いた「紙本著色宝満山入峯絵巻」には、総勢75人の山伏たちが詳細に描写されており、山伏の実像を伝える貴重な資料として、市の文化財に指定されています。

葛城峰の帰路は筥崎宮や櫛田神社を経由し、福岡城で護摩焚（ごまたき）などを行っていました。山伏が宝満山修験道特有の市松模様の衣をまとい、帯刀して行列する様は、人々の注目を集め、さらに信仰を高める効果があったのではないでしょうか。

宝満山修験道の装束

明治5年の「修験道廃止令」により、山伏たちは山を去ることになり、宝満山で修行する姿は見られなくなりました。

しかし、昭和57（1982）年に開山心蓮上人1300遠忌を記念して、「宝満山修験会」が結成されました。会では絵巻を元に市松模様の衣を復元しています。

今年は5月14日に入峰、5月28日に採燈大護摩供（さいとうおおごまく）が行われます。

発行／筑紫野市　編集／秘書広報課
〒818-8686 福岡県筑紫野市二日市西一丁目1番1号 ☎092（923）1111 FAX092（923）5391
印刷／久野印刷株式会社
発行部数／41,300部